**スクリーニング学研究会**

**2020年以降の日本の低分子創薬戦略ワークショップアンケート**

本ＷＳにご登録の皆様

WSでの議論の題材にいたしますので、多岐に渡る内容となりますが、以下のアンケートの記載をお願い致します。また、当日は、情報を取るだけで参加するのではなく、参加される皆さんの積極的な発言を期待していますので、よろしくお願い致します。

**質問１　皆様に関してお伺いします。差支えない範囲でお答えください。**

1－1　あなたはスクリーニングにどれだけ携わっていますか？

A. 10年未満　B. 20年未満　C. 20年以上　　　　　　回答；

1－2　あなたはあなたの組織のスクリーニング戦略に対して、影響できる立場にいますか？

1. はい　B. いいえ　C. わからない　　　　　　　　　回答；

【化合物ライブラリ】

**質問２　皆様の組織の化合物ライブラリ戦略に関してお答えください。**

A. 現在も積極的に拡大路線にのって、増強している。

B. 現状を維持するために、消費分を補充する程度の追加をはかっている。

C. 化学の目を入れて、数の戦略から質の戦略に変換中で現状ライブラリから可能性の高いライブラリに改良中にある。

D.　外部のライブラリを活用する

E.　その他（もしさしつかえなければ理由も）

回答；

質問３　質問２で「外部のライブラリを活用する」を選択された方は、その活用法についてお答えください。（複数選択可）

A.　化合物の共同購入を推進する

B．企業間の化合物交換を推進する

C.　化合物ライブラリの共同利用、共同保管を推進する

D.その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

回答；

質問４　質問３で「化合物ライブラリの共同利用、共同保管を推進する」を選択された方は、その活用法についてお答えください。（自由記載）

例えば、アカデミア創薬に活用するには、どのような形態がよいのかなど

**質問５　DNA encodedライブラリに関してお答えください。**

A. 本格導入やデモなどで実際に使って有用である。

B. 技術的には興味があるが、コスト面でなかなか踏み出せない。

C. 可溶性タンパクを対象するなど、技術としては用途が限定的で積極的に推進することは考えていない。

D.　その他（もしさしつかえなければ理由も）

回答；

【HTS関連】

**質問６　HTSを行っているプレートフォーマットに関してお答えください。**

A.　可能であれば1536, 3456 well formatにのせてHTSを実施している。

B.　HTSは384 well formatが中心で行っている。

C.　HTSは96 well formatが中心で行っている。 　　回答；

**質問７　HTSはターゲットベースか、フェノティピックかに関してお答えください。**

A. ターゲットベースのHTSが主流。フェノティピックが全HTSの5%未満

B. フェノティピックのHTSも手掛けている。フェノティピックが全HTSの20%未満

C. 積極的にフェノティピックのHTSを取り組んでいる。フェノティピックが全HTSの20%以上　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　回答；

【動向】

**質問8　低分子創薬に加えて、新規モダリティー（核酸、中分子など）に対する取り組みに関してお答えください。**

A. 新規モダリティの取り組みは考えていない、もしくは検討中で未着手である。

B. 新規モダリティに対して取り組んでいるが、まだHTSによる低分子創薬が主流である。

C. 低分子創薬も手掛けているが、主流は新規モダリティからの創薬に向かっている。

D. 低分子創薬は終焉が近く、新規モダリティの核酸、中分子などで創薬の実績が具体的に出はじめている。

回答；

【HTS体制】

**質問9　皆様の組織のHTSにかかわる要員計画に関してお答えください。**

A. この数年間を見ると、要員は増員されている。

B. ほぼ定常状態を維持している。

C. この数年間を見ると、要員は減少傾向にある。　　 回答；

**質問１0　皆様の組織のHTS自動化に対する取り組みに関してお答えください。**

A.　自動化をさらに進める（あるいは今後も進めていく）方向にあり、ロボット化は重要な戦略に考えている。

B. アッセイ系の多様性をカバーするために、半マニュアルオペレーションの状態で研究員が処理をする。　効率化より多様性を重視したい。

C. 自動化を進めつつ多様性も実現できるように取り組んである。

D. まだ自動化を話せるレベルに到達していない。　　　　　　回答；

**質問１１　フルHTSが終了し、ヒット化合物の絞込みを行うに当たり皆様の組織の化学のかかわりに関して質問です。**

A.　かなり積極的に早期から関与してくれ、共にHTSを進めていてくれる。

B. 　ヒット候補が出るころからかかわってくれ、十分機能している。

C.　ヒット候補が出るころからかかわってはくれるが、十分とは思えない。

D.　HTSに化学はあまり期待できない。（なかなかヒットを取り上げてくれない、要求が厳しいなど）

E.　その他

回答；

**質問１2　皆様の組織の中で、HTSグループの置かれている所属はどこにありますか？**

A. 薬理系（生物系）の部署に所属

B.　化学系の部署に所属

C.　探索系、技術系の部署に所属

D. どこにも該当しない。（アカデミアでの組織など）　回答；

**質問１3皆様の組織の中で、ケモ・バイオインフォマティクス関係、ITがどれだけしっかりコミットしてくれているでしょうか？**

A. 満足いく協力が得られている。

B. 改善の余地はあるが、仕事は困っていない。

C. まだまだ協力していかないといけない。

回答；

【将来構想】

**質問１4　HTSの将来に関してあなた個人の意見としてどのように思われているかお答えください。**

A. とても重要なプロセスで創薬には欠くべからずの仕事である。

B. 必要な仕事であるが実績を常に求められて、現状維持が関の山であまり明るい未来は描けない。

C,　その他（自由記載お願いします）　　　　　　　　回答；

その他とお答えした人に自由記載欄

**質問１5 HTSの将来の戦略を考えるうえで、下の図のような4つの方向性があると思います。あなたご自身が考える取るべき戦略とあなたの組織が取っているあるいは取ろうとしている戦略はどの方向かA, B, C, Dでお答えください。**



1６－1　あなたの考え　　回答；

1６－2　あなたの組織の戦略　　　回答；

**質問１6　企業間・産学連携、CRO活用等のアライアンスに対して、あなたご自身が考える取るべき戦略とあなたの組織が取っているあるいは取ろうとしている戦略に関してお答えください（複数回答可）。**

A．ライブラリー共同利用や化合物交換を積極的に推進

B．HTSの外部委託やHTS関連技術の共有を積極的に推進

C．アカデミア発のターゲットや新規HTSアッセイ法の積極的な導入

D．アライアンスは不必要

複数回答した方は、A～Cの優先順位を以下に記載ください。

ご自身の考え

（ 優先度1．　：優先度2．　：優先度3．　 ）

組織の考え

（ 優先度1．　：優先度2．　：優先度3．　 ）

ありがとうございました。　　　ファシリテーター一同